

## 令和2年司法試験 合格体験記

平成30年度修了（既修コース）荻野 祥平

岡山大学大学院法務研究科 14期既修の荻野祥平と申します。今回2回目の挑戦で司法試験合格を手に入れました。

成功体験談は優秀な現役合格の方に譲るとして、私は1回目の司法試験で落ちたことを活かした失敗談を2点語ろうと思います。

私は、学部生の頃から法曹を志望していたものの、あまりにも先のことに思えていい加減な勉強しかしていませんでした。ロースクールに入学してからも、なんとかなるだろうといった思い込みで司法試験の勉強をさぼってばかりいました。

既修2年目の秋から始まった答練では悲惨な成績ばかりを残し、やっと現実を認識しましたが、今度は不安と焦燥で思い通りに勉強できなくなりました。その結果、1年目の試験は不合格に終わりました。勉強をしなかったことは、できなかったときの言い訳にしかならず、結局は将来の自分に深い後悔を与えるものでしかありません。

1年目の試験で不合格と分かった後から、2年目の試験にむけて一念発起して頑張り、結果へと結びつけることができました。

法曹を志望される方は、たとえどれだけ先のことだと思えたとしても、今の身の振り方がいずれは将来の自分に大きな影響を与えるものだと思っておいていただきたいです。

もう1点いいたいことは、自分に適した学習をすることです。

既修2年目の秋に司法試験への焦りを覚えたところから、なんとか追いつこうと答練、ゼミとできるだけのことをしようと試みました。その結果、自分のキャパを超えて、どれも予習復習を怠ってしまいました。

受動的に受ける答練、ゼミほど無意味なものはありません。そこでは一時得たと思っていた知識も1週間もすれば抜け落ちていました。

答練もゼミも受ければいいというものではなく、かえって無為な時間を過ごすものだと思います。もちろん、答練もゼミも貴重な知識、書き方等を教えていただける場であることに変わりはありません。重要なことは、今自分には何が足りないのかを認識し、それを補うために答練、ゼミに参加することです。答練、ゼミを受講するからには、受けっぱなしではなく、予習復習を含めて真摯に取り組むべきです。

試験までは時間に限りがあるので、本当に今の自分に必要なことを取捨選択することはとても大事で、キャパオーバーだと思えば何かを切り捨てる勇気も必要だと思います。

最後になりますが、こんな私を見捨てずに支えてくださった家族、先生、友人、先輩後輩、資料室の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。